

利用者の視点に立った 東京の交通戦略推進会議の 変更点について

交通戦略推進会議の変更点

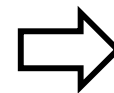
◇ 交通戦略推進会議について



◇ 変更点

当初の予定 (H27.7 第1回交通戦略推進会議時点)

- 各WGでの検討成果や将来像などから成る交通戦略案を作成し、多様な意見を反映させた上で、平成28年内を目途に東京の交通戦略として取りまとめる。



今後の進め方

- 3つのWGの検討成果を2020年に向けて取り組むプロジェクトとして取りまとめ、推進会議の報告とする。
- 交通戦略としての将来像については、今後策定する「都市づくりのグランドデザイン」に反映する。

◇ 「都市づくりのグランドデザイン」への反映

（「2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について」答申より） ◇

◎ 交通結節点WGに関する内容

第4章 都市像の実現に向けて

2－（2）人・モノ・情報の自由自在な交流の実現

（交通結節点の周辺地域の機能強化）

- 鉄道駅や高速道路のインターチェンジ周辺などは、人・モノ・情報が集まる極めて重要な都市の集約点である。自由自在な交流を効率的に実現するためにも、高いレベルのバリアフリーや環境に配慮した上で、こうした交通結節点のポテンシャルを最大限に生かす都市づくりを目指すべきである。

◎ 道路空間活用WGに関する内容

第4章 都市像の実現に向けて

2－（2）人・モノ・情報の自由自在な交流の実現

（高密度で強靱な交通ネットワークの最大限活用）

- 具体的には、将来の道路ネットワーク形成により円滑な交通が実現する地域において、その個性を踏まえ、「ストックを生かす取組」として道路空間を再編することにより、歩行者の回遊や自転車走行、最新技術を活用した交通システムの導入のための空間を確保し、ゆとりやにぎわい、快適性・防災性などの機能を高め、新たな利活用、付加価値の創出を図っていくべきである。

(身近な生活を支える多様な交通基盤の確保)

- 周辺区部や多摩地域では、鉄道の駅前広場と整備が進む補助幹線の都市計画道路を生かし、駅からバスや自転車などを活用したフィーダーサービスを充実すべきである。

2 - (7) 芸術・文化・スポーツによる都市の新たな魅力の創出

(スポーツ環境が整った都市づくり)

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを最大限に生かし、ユニバーサルデザインが施された交通機関、ネットワーク化された公園や広場、快適な歩道空間・自転車走行空間を利用して、あらゆる人が、身近な場所でもスポーツが楽しめる都市を目指すべきである。

◎ 水辺空間活用（舟運）WGに関する内容

第4章 都市像の実現に向けて

2 - (2) 人・モノ・情報の自由自在な交流の実現

(舟運ネットワークの形成と水辺に顔を向けたまちづくり)

- 東京の特徴の一つである豊かな水辺空間を生かすためにも、舟運を都市交通網の一部として位置付け、「舟運ネットワークの形成」に向けて大小船着場の整備と船着場から駅へのアクセスの充実により、水上交通と陸上交通の連携を図ることが必要である。また、船着場と一体となったにぎわいの誘導、水辺空間の柔軟な利活用なども推進すべきである。